

佐賀県研究成果情報（作成 2026 年 2 月）

[情報名] 貯蔵する中生タマネギでは L 規格中心の生産で高収益を確保できる

[要約] 中生タマネギ‘ターザン’における一球あたりの単価は規格が大きいほど高くなることが多いが、貯蔵腐敗による減収を考慮すると収益面では L 規格中心の生産が有効である。

[キーワード] 中晩生タマネギ、高収益、推奨規格

[担当] 佐賀県農業試験研究センター・環境農業部・土壌・肥料研究担当

[代表連絡先] 0952-45-8808 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 土地利用型作物

[専門] 土壌

[背景・ねらい]

貯蔵による長期出荷を目的として栽培される中晩生露地栽培タマネギでは重量単価が高く、貯蔵性にも優れるという観点等から ML 規格の割合を高めることが推奨されている。しかし、規格割合の違いが収量や売上に及ぼす影響については具体的には示されていない。そこで、安定した集荷生産（市場及び農業者のニーズ）及び売上の確保（農業者のニーズ）に資する推奨規格を提示することを目的に、規格割合の差異が売上に及ぼす影響を実際の生産現場で問題となる貯蔵腐敗の発生を考慮に加えて検証する。

[成果の内容]

1. 高単価年及び平均的単価年における重量あたりの単価（円/kg）は L、M、2L 規格の順に高いが、一球あたりの単価（円/球）に換算すると 2L、L、M 規格の順に高い（表 1）。しかし、2L 規格の大玉になると腐敗により減収することを考慮した場合、売上は 2L 規格割合が高いと減少し、L 規格割合が高いと向上する（表 2）。なお、M 規格は重量あたりの単価は高いが、一球あたりの単価が低い（表 1）ことから、腐敗リスクを考慮しても売上向上は期待できない（表 2）。
2. 低単価年では一球あたり単価は L 規格が最も高い（表 1）ことから、腐敗による減収を考慮した売上も L 規格割合が高いと向上する（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は中生品種ターザンを供試して得られたもので、同様に貯蔵する晩生品種にも応用可能である。生産規格を明確化することで技術者が栽培指導を行う際の指標として活用できる。
2. 貯蔵腐敗の発生が少ない場合には 2L 規格の割合が高いほど売上は増加する。しかし、腐敗の発生を予測することは困難であるため、高品質で安定した生産を確保するためには L 規格の割合を高めることが望ましい。

[その他]

研究課題名：適正規格の高品質タマネギを毎年安定生産するための球肥大コントロール技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2025 年度～2029 年度

研究担当者：水本現喜、陣内宏亮、山口史子、古田明子、正司和之、井手洋一

[具体的なデータ]

表1 中晩生タマネギの各生産年における規格別の重量及び一球重あたりの単価試算

単価条件	タマネギ規格	単価	
		重量あたり [B] (円/kg)	一球あたり [C] (円/球)
高 単価年 (2022年産)	2L	208.0	90.4
	L	236.0	75.5
	M	234.0	50.5
	S	199.5	32.4
	2S	155.5	14.9
平均的 単価年 (2024年産)	2L	117.0	50.9
	L	134.5	43.0
	M	121.5	26.2
	S	100.5	16.3
	2S	77.0	7.4
低 単価年 (2020年産)	2L	45.0	19.6
	L	66.5	21.3
	M	70.0	15.1
	S	58.5	9.5
	2S	43.5	4.2

※ 一球重(g/球) [A]:佐賀農試で2021~2023年度に実施した試験の実測値(平均)

2L:434.8g、L:320.0g、M:215.9g、S:162.2g、2S:96.0g

※ 重量単価(円/kg) [B]:各年5~6月のJAさが販売価格

※ 球あたり単価(円/球) [C]:一球重(g/球) [A]×重量単価(円/kg) [B]/1000

表2 中晩生タマネギの規格割合の違いが収量及び売上に及ぼす影響試算

単価条件	収穫タマネギの 想定規格別割合			収量 [D] (kg/10a)	売上 [E] (千円/10a)	腐敗による 減収を考慮 した売上 [F] (千円/10a)
	2L (%)	L	M			
高 単価年 (2022年産)	100			11,740	2,442	813
	50	50		10,190	2,241	1,382
		100		8,641	2,039	1,952
	20	70	10	8,979	2,052	1,665
		50	50	7,234	1,702	1,658
平均的 単価年 (2024年産)			100	5,828	1,364	1,364
	100			11,740	1,374	457
	50	50		10,190	1,268	785
		100		8,641	1,162	1,112
	20	70	10	8,979	1,159	941
低 単価年 (2020年産)		50	50	7,234	935	910
			100	5,828	708	708
	100			11,740	528	176
	50	50		10,190	551	363
		100		8,641	575	550
低 単価年 (2020年産)	20	70	10	8,979	549	461
		50	50	7,234	491	479
			100	5,828	408	408
				100	5,828	408

※ 収量(kg/10a) [D]:一球重(g/球) [A]×27,000球/10a×想定規格別割合(%) /100

※ 売上(千円/10a) [E]:収量[D]×一球単価(円/kg) [C]

※ 腐敗による減収を考慮した場合の売上(千円/10a) [F]:
=売上(千円/10a) [E]×(100-貯蔵腐敗割合(%))/100

※ 腐敗割合は2022年産現地タマネギ(中生ターザン)の腐敗調査(常温貯蔵して60日後の腐敗割合)のうち腐敗が最も多かったデータを引用。

2L:66.7%、L:4.3%、M:0%、S:0%、2S:0%